



石神小だより

5月号 令和3年5月6日発行

352-0033 新座市石神1-10-20

Tel 048(477)2152

Fax 048(482)6797

<http://www.c-niiza.ed.jp/e-ishigami>

石神小だからできること

校長 佐久間 幸代

エコスクールをきっかけに造られたビオトープは、寒かった冬の間も生き物や植物たちの命をつなぎ、日に日に緑が濃くなってきました。そっと草や土をよけると、かさかさとした生き物たちが日差しに驚いて、あわてて身を隠します。小さな池では、やごが羽化し、オニヤンマへと成長しました。残念ながら、鳥の攻撃を遮るためのネットがあったため、飛び立つことができませんでした。昆虫を限りなく愛する児童の



一人が、標本にするために大切に家に持ち帰りました。(SDG s 15 関連)

ビオトープの管理は大変難しく、時間に余裕のない教職員は、なかなか手が回りません。そこで、学習応援団になられた方にお手伝いいただくことになりました。

(SDG s 17 関連)

身近な季節の移り変わりは、意識しないと何となく過ぎていってしまいます。自然豊かな石神小学校だからこそ、意識して季節を感じていきたいと思えます。

タブレットを日常で

昨年度より、1人1台のタブレットを市に設置していただき、現在、3年生以上に割り当て、活用を進めています。

児童は、様々な場面でタブレットの活用技能の習熟を図ることができます。(SDG s 4 関連)

また、これまでプリント(紙)を使ってきたアンケート等も、タブレットを使うことで、集計が迅速になり、紙の使用も抑えることができます。例えば、全校に毎月実施する生活アンケートは、本校児童約600名が11回行くと、6600枚必要です。約5,000円の節約になります。(SDG s 12 関連) 集計作業の短縮は、教職員の働き方改革にもつながります。

一方、情報リテラシーの確立が課題となります。児童が必要な情報を、適正に活用できるような指導も大変重要です。



1つの活動を、多面的にとらえ、適切に運用していくことが、キャリア教育にもつながっていきます。(SDG s 8 関連)

命を守ること

東日本大震災の起こった直後、避難所となった体育館で行われた宮城県気仙沼市立階上中学校生徒会長の卒業生代表の言葉「生かされたものとして、顔を上げ、常に思いやりの心を持ち、強く、正しく、たくましく生きていかなければなりません。」

この卒業式は、当時6年担任をしていた私には、衝撃でした。それ以来、子供たちとともに、命を守る教育を学校の中心として取り組んでいます。感染症や自然災害等、現代を生きる私たちは今、様々な危険にさらされています。小学生は、大人に守ってもらっていた自分の命を自分で守るようになる発達段階となります。事件、事故から自分の命を守り、且つ、自然の脅威からをも守り通すために、日常の様々な場面で、安全な行動を指導しています。

感染症対策を十分行いながらの避難訓練や救急救命等も、準備をしています。

真剣に命と向き合い、自分も自分にとって大切な人もみんなの命を守っていく石神小でありたいと思っています。